

ミナミトゲヘリカメムシによる各種果樹での被害

令和8年度、ミナミトゲヘリカメムシによるカキ・キウイ被害を本県で初めて確認したため、本種による果樹被害の特徴をまとめた。
果樹被害の詳細については令和8年度 病害虫防除技術情報（第4号）を参照。

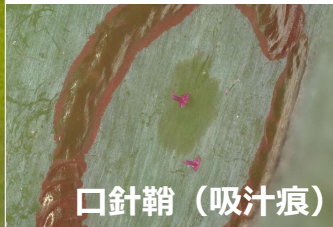
■ カキ



カキ（愛宕）に寄生する
ミナミトゲヘリカメムシ
(2026年7月撮影)

- 本種が寄生していた果実には**口針鞘**が多く残っており、吸汁被害を確認した。

- 本種の加害によって、果実が**落下**する場合がある。



口針鞘（吸汁痕）



果皮の変色



果肉の変色

- 加害箇所は**茶褐色に変色**し、剥皮すると、**果肉も変色**している場合がある。



- 加害箇所に**亀裂**が生じる場合がある。
- 吸蛾**のような吸汁痕を残し、**陥没**する場合もある。

■ キウイフルーツ

《幼果期の加害によって現れる被害症状》



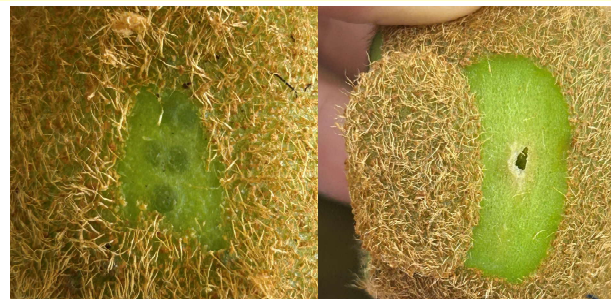
陥没

亀裂

- 本種に加害されると、加害箇所が**茶褐色**に変色し、**陥没**や**亀裂**が生じる。

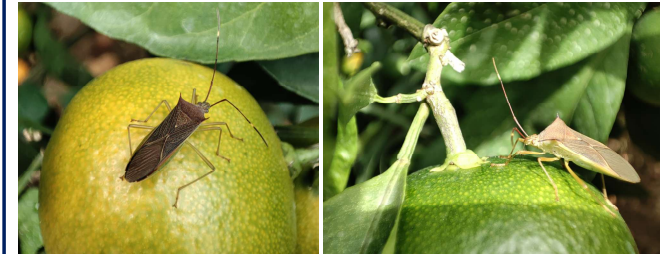


- 加害箇所を剥皮すると、**果肉部分が黒く変色**し、大きな**穴**が形成される場合がある。
- 穴は概ね、**種子部**か**果芯部**にまで到達する。



- 加害箇所を薄く剥皮すると**水浸状の吸汁痕**がある。
- 外観上被害がなくても、剥皮すると**果皮内に吸汁痕**が残る場合もある。

■ カンキツ



- 本県におけるカンキツでの被害は令和5年10月に初確認された。



- 加害された果実では、まだら様に**異常着色**する。
- 加害された箇所は**ス上がり症状**がみられる。



- 発生が多いと、果実の**落果**がみられる。

《本種の発生と対策》

- 本年の果樹園での発生状況は、**5月中下旬**、**7月上中旬頃**に発生量の増加が認められた。
- 令和5年度では10月頃、カンキツ園への飛来が認められたため、今後の発生に注意が必要である。
- 本種に対する防除では、果樹カメムシ類に登録のある薬剤で効果が期待できる。